

### 第3回 新しい学校づくり美馬市・つるぎ町地域協議会議事録

#### ○ 新しい学校の教育内容について

##### 委員

本日、美馬商業高校にお伺いし、受付・案内をしてくれた女子生徒さん、所々で会いました男子生徒さん、全て、礼儀正しくて、言葉使いも丁寧で本当に感激している。この素晴らしい校風が、新しい学校にも引き継がれることを望んでいる。

それと、第3回は2月中旬開催と聞いていたので、12月中旬に美馬市内の中学1・2年生にアンケートを取った。

学科の基準としたのは、最終方針の「美馬市・つるぎ町地域」には、工業科、商業科、産業経営科が載っていると同時に、他ページには「看護・福祉教育については、県西部への配置などについて、引き続き検討していく」と書いてあったので、工業科、商業科、産業経営科、看護科、福祉科についてアンケートを行った。

全体が617人で、95.8%の591名が回答し、その内訳で作った。「希望する」、「今はよくわからないが希望する」との回答を合わせると、工業科が20.5%、商業科が14.4%と高い比率を誇っており、続いて、看護科、産業経営科、福祉科と回答が返ってきた。希望学科のある生徒347名で起こしていくと、看護科希望52名は、徳島新聞にあるように15%となる。

これを、今の時期でなく2月中旬に委員の皆さんに実情としてお話しして、ご理解を得て協議していただこうと思っていた。それなのに、看護科は出来ないというような資料(コンピュータを使っただけのプレゼンテーション)を見せられては、委員の皆さんが意見を言えなくなる。県教委が県西部に検討すると最終方針に書いているではないか。あれだけの設置出来ないという資料があるのなら、最終方針になぜ書くのか。6月14日の徳島新聞から今日までの2週間あれば、これだけの資料ができるのではないか。今まで黙っておいて、なぜもっと早く出さなかったのか。県議会でも、美馬・三好の医師会が陳情に行っている。決定的に出来ないという資料を、この協議会に出さずに、そちらに出せばよい。この資料を見せられて、委員の皆さんが絶対に作れとは言えない。この資料を貸してもらって、我々も地域から出てきているので、地域の人にも説明をしないとイケない。

##### 委員

ここにいらっしゃる県教委のメンバーは、最終方針を作ったメンバーとは変わっており、そういう資料さえ集めていなかったのではないかと。

##### 委員

美馬市教育委員会がアンケートを出してから、県教委は2週間でこの資料を集めている。第2回目の協議会で看護科の声が出ているときに、もっと早く出せば良かったのではないかと。今日まで、引き延ばす必要はない。第2回目の協議会の時に、最終方針にはこう書いてあるが、看護科はこういう理由で出来ないと言えよ良かったのではないかと。この資料を見てから、看護科の話を誰ができるのか。それでも、「医師会がやると言っているから」となると、徳島大学をこちらに持ってこないといけなくなる。富岡東は公的な病院だけで

実習をしているかもしれないが、実際に公的な病院でないと実習はできないのか。それと、看護師の充実状況も民間関係での看護師も調査に入っているのか。

#### 県教育委員会

資料が2週間で作成できたとのことだが、資料集めからすると基本的に2月あたりから、こういう資料が出せたらということで準備を進めていた。2月に第3回目のご案内を差し上げていたが、学校行事で修学旅行があったり、3月の年度末であったこと、それと、今年も県の方も、2段階での人事異動ということで、4月・5月で人が替わったりと、そういう事情があったため、当初の2月の開催予定より、大きく延びてしまったことはお詫び申し上げたい。

#### 委員

14日の徳島新聞に出ていなかったら、県教委もこんな資料を準備できていなかったのではないかと。

#### 県教育委員会

14日に徳島新聞の記事が出たからということではなく、前回、看護科の要望があったので、富岡東高校では、どのように看護教育がなされているのかを今日にご説明し、富岡東高校がこういう規模でやっているのだけれど、それと美馬地区と比較をしてどうかを、ご協議いただきたいと考えている。

#### 委員

それはわかるが、それなら、どうして11ページに「県西部への配置などについて、引き続き検討していく必要がある」などと書くのか。その時に切っておいてくれて、載せなければ良かったのではないかと。こんなものが在るから、美馬と三好は期待する。つるぎ町でも、議会で出ていたのではないかと。

#### 委員

再編では、この地域へ看護科は絶対におかないというのは、県の方針として決まっているのか。

#### 県教育委員会

絶対に置かないということではなく、富岡東高校の例を見ても、看護科は教育委員会だけでは、なかなか開設しにくい学科で、医師講師、実習病院の確保など、地域の教育力がないと、美馬地区・三好地区の県西部に看護科を設置するのは、ハードルが非常に高い。

#### 委員

吉野川市を含めても良いのではないかと。

#### 県教育委員会

吉野川市を含めるかどうか、いずれにしても、県西部で看護科を開設するという事は、基本的に、生徒は美馬地区・三好地区から多く来てもらわないといけない。

#### 委員

先ほどの資料の需給状況については、私は逆に感じている。

#### 県教育委員会

平成17年12月の厚生労働省の報告書では、供給の方が多ということになっている。

#### 委員

ここ1年ほど前に、病床に対する看護師数による診療報酬の改定が行われ、公立に看護師が流出して民間病院では困っている。公立ばかりでなく、民間の医療機関のことも考えたらどうか。

#### 委員

両校の説明で、起業家の養成のことが出たが、起業家を養成するのは大賛成だが、つるぎ町では、全県下的にもおそらくそうだと思うが、無理に起業家でなくても、例えば看護師不足、介護士不足とかの保健福祉の方面への人材がこれから期待されている。それなのに、さっき見せてもらったのでは否定的なことばかりではないか。

#### 委員

富岡東高校看護科へは、美馬地域から2人しか行っていないが、この地域にあれば違うかもしれない。

#### 県教育委員会

別な表で見ていただいたように、高校を卒業して、看護系の大学とか看護学校へ行っている人は40名ほどいる。

#### 委員

我々は、起業家イコール地元へ残ってくれる生徒を望んでいる。大企業、有名企業へ行って欲しいものもあるが、看護師であれば地元に残ることができ、若者の定住になり、少子化対策にもなる。さらに医療の充実に繋がるので、先ほどのような資料の出し方でなく、「美馬・三好にも必要である。こうしたら道が開けますよ」というような資料でないと、「あれもだめこれもだめ」と始めから言って、「さあ皆さんどうしましょう」というのでは意見が言えない。私が今日提案しようと思ったのは、「15%もいるんですよ」と、共感を呼ぼうと来ているのに、「希望者はいても、5年間継続して看護師教育を受ける強い意志があるのか」と、頭から言われているようなものだ。需給状況を言うのであれば、美馬・三好地域の需給状況を調べて欲しい。需給状況だけ、県下全体を出して、残りは富岡と美馬の比較ばかり出されてはたまらない。

#### 委員

看護師の勤務の現場はご存じか、労働基準局から怒られるほどハードである。怒られるけど、やらないとしようがない。貞光工業と美馬商業が合併するのなら、地域のニーズとして、看護師の養成学科を設置してもらって、何年かしたらどうかというのでなく、社会

は生きているのだから栄枯盛衰はある。少子化によって看護師になる生徒は若干減るかもしれないが、需要としては増えている。つるぎ町では看護師不足で大変な状況である。報告書の検討するというのを生かして欲しい。

委員

私は、需要と供給を見た時に、「あれっ」と思った。出所を教えて欲しい。

事務局

厚生労働省である。

委員

供給は資格を持っている人数なのか。それとも、実際に仕事をしている人数なのか。

事務局

供給見通しは、看護師資格は持っているけれども、今まで勤めていなかった人が再就職したとか、勤めていた人が退職し減少した数などを、プラスマイナスして算出したものである。

県教育委員会

需給見通しは、県下全体の需給状況で、地域ごとには出ていない。地域によって、それぞれ差があるのかもしれない。

委員

看護師は、通常、日勤、準夜、深夜の三交替だから、資格を持っている人の延べ数でなく、実際の勤務となれば3分の1ずつとなり、完全に供給は不足している。あれは意図的、恣意的な数字で、3分の1にすれば決定的に供給は少ない。

委員

さっき説明したのは、資料としてあるのか。

県教育委員会

コピーすれば資料としてある。

委員

あるなら、資料として欲しい。それと、説明した言葉の文章も欲しい。

県教育委員会

さっきの需給状況は厚生労働省で出しているのだから、需要というのをどういう形で取っているのかはわからない。

委員

私は、この統計の供給の方に、恣意的な何かがあると言っている。実際に、富岡東とこ

ちらを比較するのであったら、この地域での需給状況を知らないで、県全体ではまったく意味がない。

県教育委員会

この地域だけの資料は出ていないので、地域の需給状況は持っていない。

委員

繰り返しになるが、供給は、実際3分の1になるのが正しい。1人の人間が、日勤をしたり準夜や深夜をしたり出来るのか。

県教育委員会

この調査が、どういう調査の仕方をしているのかは、把握してみないとわからない。

委員

把握してから利用して欲しい。

県教育委員会

3分の1の供給でいっているのか、全体でいっているのかはわからない。

委員

それを使う時には、理解してから使って欲しい。現場の声と需要供給は相違している。

委員

富岡東高校の場合、40人のうち何人が看護師になれているのか。

事務局

今年が、5年一貫教育での初めての卒業生で、33名が卒業し、31名が看護師試験に合格している。

委員

31名以外の2人の子は、来年、看護師試験を受けることは出来るのか。

事務局

受験資格はある。

委員

普通科高校でも、全部が全部、卒業しないのではないか。少しは落ちているのではないか。40名のうち33名が卒業できたら良いのではないか。高校3年が終わっていても、高校卒業資格は得られないのか。

県教育委員会

3年が終われば、高校卒業資格はある。

#### 委員

「5年間いかないと、国家試験を受けられない」と言うが、その説明はよい。問題は医師会の方が、今、県教委が説明したことを、「どのようにクリアするのか」であるから、我々の方には、富岡東と美馬の差ばかり言わずに、徳島大学をここまで移してくるわけにはいかないのだから、県は45キロ（徳島大学と美馬地域間）あるけれど、頼んでくれないといけない。

#### 県教育委員会

先ほども説明したが、富岡東高校の場合、外部講師となってくれる医師が45名ぐらいおり、その内でも相当な部分は、地元の医師でカバーしていただかないといけない。

#### 委員

それは、これだけの数字の講師がいると医師会の方に投げかけるから、それなら議論しても良いのか。西部ではノーと言っているのと同じではないか。

#### 県教育委員会

ハードルが高いということで、今日、説明した中には実習施設として公立の病院しか説明していないので、民間の病院はどこが可能なのか検証してみたい。

#### 委員

民間がしてはいけないというのは決まっているのか。

#### 県教育委員会

そうではないが、実習の受け入れ病院となるには、基準があり、その基準を満たしている民間病院がどれぐらいあるのかは調べていない。

#### 委員

その基準は病床数か。

#### 事務局

病床数や看護職員数だけではない。富岡東高校では、どの病棟でどのような実習が出来るのかについては、病院と話し合っていて決めている。富岡東高校の先生の話では、看護実習は、専門性が高く間違いがあってはいけない実習となるので、公的病院、総合病院が望ましいとのことである。つるぎ町立半田病院には3病棟あるので、どのような実習が出来るのか調査したい。

#### 委員

公的病院がないから、その次の策として民間でもと言っている。私は脇町だが、石を投げればあたるほど民間病院があり、大きな病院もあるので民間病院でも出来るのであれば調べて欲しい。

#### 委員

条件だけで出来ないというのではなく、その条件を乗り越える努力をして欲しい。

#### 県教育委員会

実習施設は公的病院が望ましいということで、公的病院だけを比較しお示しをした。脇町には大きな民間病院もあるとのことなので、民間病院で基準を満たしている病院があるのか調べてみたい。

#### 委員

需要と供給についても、県下全体でなく地域の数字を出して欲しい。

#### 県教育委員会

需要と供給については、教育委員会のできる調査能力の範囲を超えているので、厚生労働省の資料を使わざるを得ない。美馬・三好地域でそういう資料があるのか調べてみたい。

#### 委員

地域に医師会があれば、看護師協会があるので名簿を持っている。

#### 県教育委員会

人数については、先ほどもお示しをしたように把握できるが、需給状況については、何を持って需給状況とするのかについては教育委員会ではわからない。

#### 委員

わからない資料は使わないで欲しいし、それは、いろんな形で調べることができるので、調べてもらわないと困る。また、私が申し上げたいのは、最終方針は前任者が作ったことなので、あなた方を責める気はないが、地域から看護科を作って欲しいという声があがった場合は、その立場に立って、いろんな資料を集めるべきではないのか。私から見れば、それは誠意がなく、作らないという結論があって資料を用意したと取られても仕方がないのではないか。

#### 委員

貞光工業と美馬商業の再編ということで、少子化の中、もし、両校の中に看護科を置くとなると、女子がほとんどとなるので、女生徒が多い商業科の定員を減らすということになるのではないか。地元の生徒の割合が90%である商業科が1クラス減ると、商業科に来ている地元生徒の受け入れ先が無くなってしまい。多くの地元の生徒が、三好、吉野川地域に流れざるを得なくなるということを考えていただきたい。

#### 委員

看護科については、実習施設、外部講師、生徒の確保について、まだまだ議論を重ねる必要がある。事務局の方で、本日の議論を踏まえ、資料を準備していただき、次回に引き続き検討を行いたい。本日は、工業教育、商業教育についてもご検討をお願いしたい。

## 委員

貞光工業の、就職・進学状況については、先ほどのプレゼンテーションでご覧いただいたが、部活動でもラグビーは四国大会で優勝し、遅くまで補習を行い高度な資格取得でも合格率を上げているので、現在の元気な工業教育を引き続き行っていきたいというのが本音である。しかし、この地域の生徒数が減るといふ否めない事実があるので、美馬商業との統合なり、規模の縮小なりは仕方ないことだと思っている。また、先ほど他の委員が言われたように、美馬商業の生徒達も本当に良くやっている。両校はもともと美馬商工という学校であり、貞光工業、美馬商業がお互いに良い意味で刺激し合いながら、両校ともに、地域から認められる素晴らしい工業教育、商業教育を行っている。両校がどうしようもない学校で、生徒達も希望もなく来ているのであれば、他の学科を検討する必要があるかと思われるが、美馬市のアンケートでも、貞光工業工業科、美馬商業商業科に来たいという生徒がこれだけいる。

看護科については、昨年度まで県南でいたので、なかなか高いハードルがあるのはよく分かっているので、美馬地域だけで出来るのか、それとも、三好地域、吉野川地域にもかかるのか分からないが、この地域協議会では、工業教育、商業教育がどうあるべきなのかを中心にご検討いただき、看護科については、医師会、三好地域、美馬地域、吉野川地域も含めた何らかの違う形で検討していただかないと、時間ばかりが過ぎていくのではないか。何とか今ある元気な工業教育、商業教育を発展させていくということで、ご意見をいただき、もともと、美馬商工という1つの学校であったので、元気なうちに新しい学校を作りたいと考えている。

## 委員

美馬商業は、地元の生徒が約90%を占め、全校生徒の約60%が女生徒である地元密着型の学校である。頭髪・服装指導、礼儀作法、マナー教育等にも力を入れ、良き職業人の育成を目標に、いつ社会に出ても恥ずかしくない生徒を育ててきており、このことに関しては、県下一だと自負している。また、生徒も目標を持って頑張ってくれており、資格取得、各種競技会においても県下で上位を占めている。

ところで、6月17日に近畿支部同窓会を大阪で開き、70名程の同窓生に来ていただいた。その内の約20名が、美馬商工時代の卒業生で、「美馬商工時代に戻るんですね、美馬商工時代に戻るのならば、美馬商業と貞光工業の良き伝統を受け継いだ学校にして欲しい」と強く要望された。統合になれば、商工の連携であるとか、総合選択制を取り入れ科目の相互乗り入れが出来るようなカリキュラムを考えているが、看護科が入ってくると科目の相互乗り入れが困難となるとともに、商業科の定員が減らされることになり、商業科に来ていた地元の生徒の行き先はどうなるのか懸念している。

美馬商業の生徒は、地元に残り、地元の事業所に就職したいという希望の生徒が非常に多くいる。これからも地元を支え、地元との連携をますます深め、その成果を今まで以上に上げていきたい。そのためにも、商業科2クラスを確保しなければ、専門教員の確保が出来ず、一定の生徒数を確保し活力ある教育活動を展開するという再編の意味がなくなるので、どうかよろしく願いしたい。

#### 委員

最終方針には、「地元からの要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていくことが望ましい」とあるので、看護科について言っているのであって、工業科と商業科を除くということではなく、それは、基本としている。ただ、産業経営科を置くということで、話し合った経緯があったことは覚えていて欲しい。

#### 委員

産業経営科については、先ほどの調査でも、比較的希望が少く、中学生もその保護者も「産業経営科では何をするのか」と聞かれると思う。この地域は工業科、商業科と純粋な課程で成功もしているし、現在も、両校が元気だということなので、産業経営科という学科を作るよりは、先ほどの意見のように、工業・商業が科目の相互乗り入れを行う方が良いと思う。製造を学びながら流通を学ぶ、流通を学びながら製造を学ぶということも大事だと思う。一見して何を学ぶか分からないような学科を作ると、地元の方からもそっぽを向かれるといった心配がある。事実、この調査でも産業経営科は1桁の希望であって、中学生にも説明がなく、わからないから希望がないのだと思う。そういうことからすると、今まで学科再編をした学校で、横文字を使ったり、新しい言葉を使ったりして、目先を整えても、1年や2年で結局何をするのか分からないところもあるので、工業科・商業科なり、純粋なところで、学科を設置してはどうかと考える。

#### 県教育委員会

高校再編方針では、地域説明会で希望のあった産業経営科を提案させていただいているが、他の地域協議会では、生徒が少なくなるので、規模を拡大するために再編が行われているのに、新学科を作っては従来の学科の規模が小さくなる。新学科を作って各学科が少人数化する方向と、再編により学校規模を確保する方向ではベクトルの方向が違うのではないかとの意見があった。

#### 委員

「地元からの要望のある新学科の設置も含め、特色ある学校づくりを進めていく」と明記している。また、先ほど「美馬商工」に戻るとOBに言われたという意見があったが、社会の状況、地域住民の要望も非常に様々で変化してきているので、教育行政もそれに応える柔軟性が必要である。この西部地域は看護師不足で、医療の現場は非常に苦勞している。この医療現場の苦しみは、即、我々の人生の苦しみになる。人間に必要なのは、人と人の繋がりであり健康である。

#### 委員

産業経営科は、県の方から提案してきたもので、我々から提案したものではない。産業経営科も看護科のように、県がいるとかいらぬとか言わないといけないのではないか。

#### 県教育委員会

産業経営科は、地元での地域説明会の中で、希望学科として出てきたものであり、それを再編方針の中でご提案を申し上げており、前回協議会の中で、産業経営科についてご説明している。

#### 委員

産業経営科については、両校校長はいらないと言っており「美馬商工」に戻れば良いと言っている。ただでさえ少ない生徒が、産業経営科ができると、工業科、商業科の生徒が少なくなると言っている。それならば、工業科の中にある学科を再編しないといけないということになるのではないか。2千何年かには生徒が少なくなるのだから、両校校長も今の数がそのままあると考えてはいけないのではないか。

#### 委員

統合なり学科の縮小は当然である。

#### 委員

普通科も同じである。再編の再編があると書いてあった。次は普通科である。看護科についても、普通科に手を挙げてはどうかと言った。そうでないと、普通科もなくなるのではないかと言った。

#### 委員

工業科と商業科についてはどうか。

#### 委員

工業と商業はもともとあるのだから、それを除くという話はしていない。商業科を除いて看護科を設置してはどうかなど言っていない。地元からの要望のある新学科の設置について話をしているのである。

#### 県教育委員会

再編方針では、新学科として産業経営科をご提案しているが、再編については地域の実情に応じた再編整備をしていかないといけないということで、地域協議会を開催し、地域の知恵を活かして再編整備をしていくとのことで進めている。産業経営科という新学科を提案しているが、成功している工業と商業でどうかというのであれば、そうまとめていただければ良いし、産業経営科という新学科が良いというのであれば、そうまとめていただければ良いと考えている。ただ、地域の生徒数は減っているので、学科が2つあったところが3つになると、それぞれの学科は小さくならざるを得ない。美馬地区ではこうした学科にした方が、地域の子供達の進学状況に合うのではないか、という意見をお願いしたい。美馬商業については9割が地元の生徒で、6割が女生徒であるということであった。学科によっては、今まで美馬商業で受けていた生徒が、他へ行かなければならなくなるとの意見も先ほどあった。

新学科については、よく入口・出口というが、入口としてはどういう子供が新しい学校に来るのか、今まで美馬商業、貞光工業に来ていた生徒が、そのまま新しい学校に来られるのか、どこかに行かざるを得なくなるのかについても十分にご協議をいただきたい。それから、出口のところも、新しい学科で果たして就職や進学ができるのかということも、十分皆様のご意見をいただきたいと思っている。

#### 委員

そんなことは、1回目、2回目に言わないといけない。今まで、県は産業経営科は良いんだと言ってきて、3回目にもなってから言ってどうするのか。産業経営科と看護科について今までやってきて、今までの2回は何だったのか。2回目に決まっていなくて良かった。今までに、そういう説明はなかった。今日は、看護科を廃止というのを決めてもらっては困る。我々も地域の要望には応えないといけない。ただ、工業科と商業科をなしにするというのならば、どうするのかというのは分かるが、私は、工業科と商業科はベースとし、別に新学科を作ってはどうかという考え方で、この地域はいつていると考えている。

#### 委員

技術的なことを教えて欲しい。統合しても数は減ってくるが、工業の場合、各科を残したまま万遍なく数を少なくしていくのか。それとも、工業の電気の先生は機械を教えないので、教員の数のことも考えないといけないが、この場合、ある科を全部なくす可能性が高いのか、それとも、万遍なく減らして、教員の数も減らすのか、どちらの可能性が高いのか。

#### 県教育委員会

万遍なく減らしていくと、限りなくゼロにすることになる。そうしたことはできないので、一定の基準を持って科を廃止しないといけない。産業経営科も「工業と商業を合わせて新しい教育を」という発想からの提案であったと思う。私は、地域別説明会で傍聴の立場でいた。そのときの参加者から提案があって、報告書に産業経営科があるが、今、両校校長は、そういう曖昧な学科よりも、それぞれの特色を持っていきたいとおっしゃられたんだと思うので、産業経営科についても、この場でどうかということをご協議いただけたらと思う。

それとご質問の工業についても、それぞれの科を順番に30人、20人、15人と減らすことは出来ないなので、一定のところニーズの高いところを優先的にする。別の一つの科に再編して、両方の専門的なことはできないかなど、知恵を出して今後の学科づくりをしていきたいと考えている。

#### 委員

実際の問題として、学科がなくなり教員が必要なくなり、県全体を見ても、東工業、徳工、水産が一つになり、ますます専門の先生が必要なくなっている。この問題をどう考えているのか。

#### 県教育委員会

県全体の教員数は、需要と供給を教職員課が把握して、その配置を考えている。

#### 委員

それならば、どの科がなくなるのかというシナリオは出来ているということか。

#### 県教育委員会

それは、今後、教職員課と協議しながら考えていくこととなる。

委員

今、工業科は4つの科がある。

委員

統合問題は、おそらく5年先のことだろうが、現職としては来年のことを考える。男子の半分、女子の半分が両校に行く。私の勤める中学校では生徒数が増えているが、県西部では本年、昨年より127名、約2割減る。旧美馬郡で73名、旧三好郡でも減り、阿波や吉野川は片手ぐらゐの変動である。昨年比で今年のことを考えると、三好高校、美馬商業高校、穴吹高校規模の高校が1校なくてもよいという状況だから、各校2割程度減らしていくのか心配している。

先ほどの話にもあったように、貞光工業の土木科と建築科の定員を15名でいくのか、それとも1つにするのか、中学校側としては早く出してもらった方が有難い。それと、この統合問題も平成30年まで幅があるので「いつからやります」と早く出してもらった方が、小学校・中学校の保護者としても「我が子の時にはない、あるいはある」と分かった方が有難いので、意見をまとめるにしても「いつやります」というのを出すべきだと私は思う。